

ダイワ米国バンクローン・ファンド (為替ヘッジあり) 2014-11

<2695>

単位型投信／海外／その他資産 (バンクローン)

満期償還 2019年11月19日償還

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、外国投資信託を通じて米ドル建てのバンクローン等に投資することにより、安定的なインカム収益の確保と信託財産の着実な成長をめざしており、信託期間中につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、謹んで運用状況と償還の内容をお知らせいたします。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

償還時	基準価額	9,090円10銭
	純資産総額	299百万円
償還期	騰落率	△0.9%

大和投資信託

Daiwa Asset Management

大和証券投資信託委託株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先

 コールセンター 受付時間 9:00～17:00 (営業日のみ)
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

◇TKU0269520191119◇

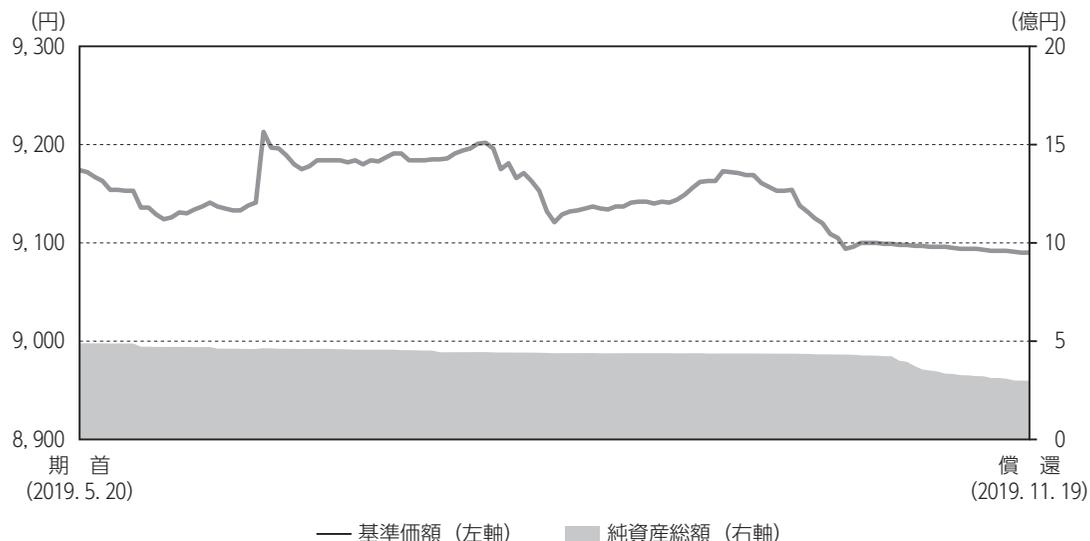
「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

上記のURLにアクセス → ページ下方の「償還済みファンド(運用報告書)」を選択 → リストから当ファンドの「一覧」をクリック → 目的の運用報告書(全体版)を選択



運用経過

基準価額等の推移について



■ 基準価額・騰落率

期首：9,174円

償還時：9,090円10銭

騰落率：△0.9%

■ 基準価額の主な変動要因

安定運用に移行した2019年10月中旬までの期間、米国バンクローン（貸付債権）市場は底堅く推移しましたが、為替ヘッジに係るコストなどが重しとなり、基準価額は下落しました。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2019. 5. 21~2019. 11. 19)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	53円	0.583%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は9,146円です。
（投 信 会 社）	(17)	(0.190)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(35)	(0.380)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 銀 行）	(1)	(0.014)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.000	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（そ の 他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	53	0.584	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

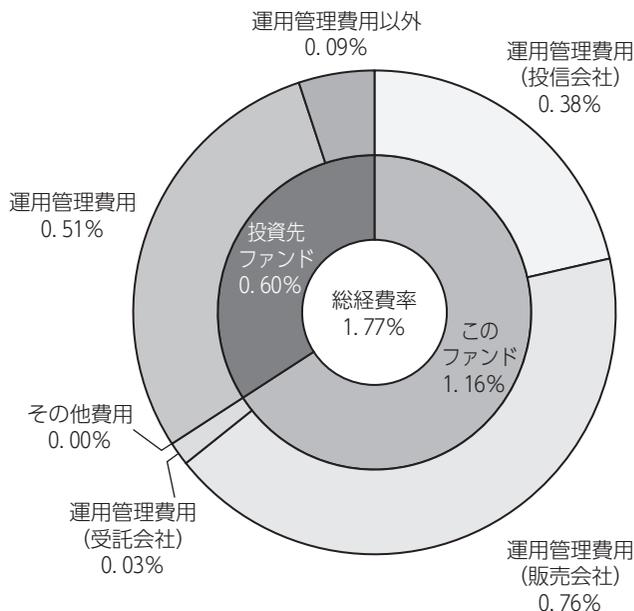
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.77%です。



総経費率 (① + ② + ③)	1.77%
①このファンドの費用の比率	1.16%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.51%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.09%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

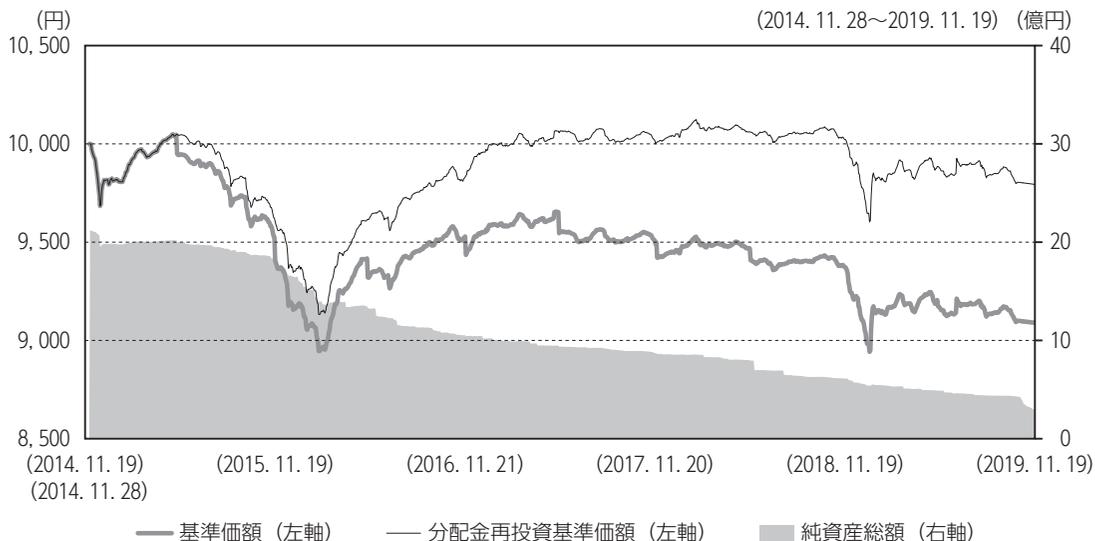
(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

	2014年11月28日 設定	2015年11月19日 決算日	2016年11月21日 決算日	2017年11月20日 決算日	2018年11月19日 決算日	2019年11月19日 償還時
基準価額 (円)	10,000	9,408	9,435	9,421	9,294	9,090.10
期間分配金合計（税込み） (円)	—	200	200	180	100	30
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△4.0	2.4	1.8	△0.3	△1.9
純資産総額 (百万円)	2,120	1,772	1,042	862	597	299

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載していません。

設定以来の投資環境について

（2014. 11. 28 ~ 2019. 11. 19）

■米国バンクローン市況

米国バンクローン（貸付債権）市場は上昇しました。

米国バンクローン市場は、当ファンド設定時から2014年末までは、原油価格の急落などを受けた投資家心理の悪化を背景に、下落する展開となりました。2015年の前半は、良好な米国経済指標などを背景に堅調に推移しました。後半は、原油価格の下落継続や中国経済への懸念の高まりなどを背景に、軟調な値動きとなりました。その後2016年から2018年9月ごろまでは、英国の国民投票でEU（欧州連合）離脱派が勝利したことや米中貿易摩擦への懸念の高まりが下落圧力となりましたが、米国の金融政策が正常化に向かう中で、金利上昇に強いバンクローンの商品特性や相対的に高い利回りを求める投資需要に支えられ、おおむね堅調に推移しました。10月以降は、世界経済や米中関係に対する懸念の高まりを受けて投資家のリスク回避姿勢が強まり、クレジット市場全般に売り圧力が強まる中、バンクローン市場も12月末にかけて急落する展開となりました。しかし2019年に入ると、投資家のリスク回避姿勢の後退とともに株式市場全体が持ち直す中で、バンクローン市場も大きく反発し、FRB（米国連邦準備制度理事会）の緩和的な政策姿勢への転換や貿易摩擦をめぐり懸念の後退などを背景に、上昇が継続しました。

■短期金利市況

当ファンドの設定以降、日銀は大規模な量的・質的金融緩和を継続しました。2016年1月にマイナス金利の導入、9月には「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の導入を決定し、日本の短期金利は低位で推移しました。一方、米国では、FRB（米国連邦準備制度理事会）は政策金利の引き上げを合計9回行った後、引き下げを合計3回実施し、政策金利の誘導目標レンジは1.50%～1.75%となりました。

信託期間中の運用方針

当ファンド

当ファンドは、G I M トラスト2ーシニア・セキュアード・ローン・ファンド J P Yクラスへの投資割合を高位に保つことによって、米ドル建てのバンクローン（貸付債権）等に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

G I M トラスト2ーシニア・セキュアード・ローン・ファンド J P Yクラス

将来的に格上げが見込めるファンダメンタルズが改善基調にある銘柄やリスク対比で魅力的な銘柄の選定を行ってまいります。さらに、クレジット（企業の信用力）の劣化に迅速に対応することでパフォーマンスの向上に努める方針です。また、為替変動リスクを低減するため、米ドル売り／日本円買いの為替ヘッジを行います。

ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行います。

信託期間中のポートフォリオについて

（2014. 11. 28～2019. 11. 19）

当ファンド

当ファンドは、G I M トラスト2ーシニア・セキュアード・ローン・ファンド J P Yクラスとダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、信託期間を通じてG I M トラスト2ーシニア・セキュアード・ローン・ファンド J P Yクラスへの投資割合を高位に維持しました。

G I M トラスト2ーシニア・セキュアード・ローン・ファンド J P Yクラス

米ドル建ての担保付バンクローン（貸付債権）等に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。また、為替変動リスクを低減するため、米ドル売り／日本円買いの為替ヘッジを行いました。

ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

1万口当たり、第1期～第5期各100円、第6期80円、第7期60円、第8期40円、第9期30円の収益分配を行いました。

受益者のみなさまにおかれましては、当ファンドをご愛顧いただき厚く御礼申し上げます。今後とも証券投資信託の運用につきましては、受益者のみなさまのご期待に沿えますよう万全を期して努力する所存でございますので、一層のご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

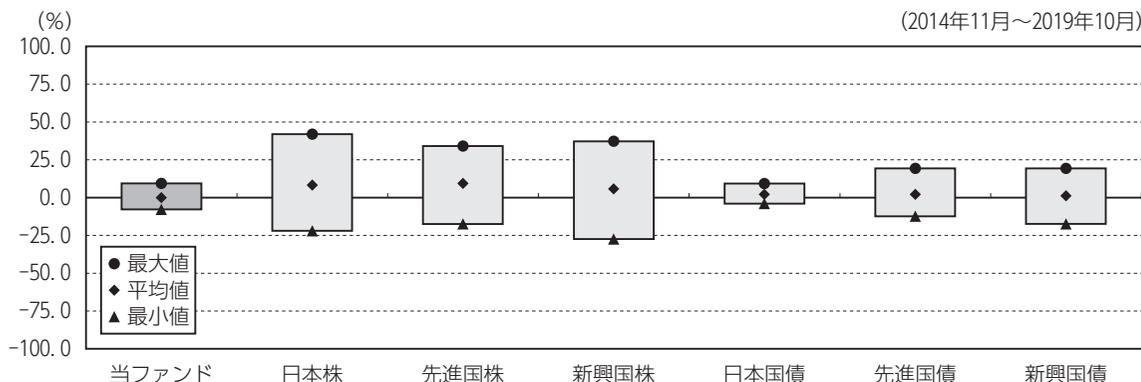


当ファンドの概要

商品分類	単位型投信／海外／その他資産（バンクローン）	
信託期間	約5年間（2014年11月28日～2019年11月19日）	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ. ケイマン籍の外国投資信託「GIM トラスト2-シニア・セキュアード・ローン・ファンド JPYクラス」の受益証券（円建） ロ. ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	円建ての債券
当ファンドの運用方法	<p>①主として、GIM トラスト2-シニア・セキュアード・ローン・ファンド JPYクラスの受益証券への投資を通じて、米ドル建ての担保付バンクローン（貸付債権）等に投資することにより、安定的なインカム収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。</p> <p>②当ファンドは、GIM トラスト2-シニア・セキュアード・ローン・ファンド JPYクラスとダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態では、GIM トラスト2-シニア・セキュアード・ローン・ファンド JPYクラスへの投資割合を高位に維持することを基本とします。</p> <p>③GIM トラスト2-シニア・セキュアード・ローン・ファンド JPYクラスでは、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。</p>	
マザーファンドの運用方法	<p>①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。</p> <p>②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA-2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。</p>	
分配方針	分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のうちいずれか多い額とし、原則として、経費控除後の配当等収益の中から分配することをめざします。ただし、基準価額の水準等を勘案し、元本超過額も含めて分配を行なうことがあります。なお、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	



代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	9.4	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
平均値	△ 0.1	8.2	9.3	5.8	2.1	2.1	1.2
最小値	△ 7.8	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。

②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。

③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI 国債

先進国債……………FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。●MSCI コクサイ・インデックスおよびMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI 国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE 世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLC が有しています。●J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morgan はその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morgan からの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.



ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

最終期末における有価証券等の組み入れはありません。

純資産等

項 目	償 還 時
	2019年11月19日
純資産総額	299,020,445円
受益権総口数	328,951,601口
1万口当り基準価額	9,090円10銭

* 当期中における解約元本額は204,146,972円です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。